

## 「高木岬」と「久野岬」 (日本ビタミン学会誌「ビタミン」より転載)

名古屋大学名誉教授・日本ビタミン学会名誉会員 清水 祥一

南極大陸には、ビタミンに関係した科学者の姓を冠した地名がいくつか存在する。そのうちに日本人の姓をつけた地名は13あると聞いているが、ここでは、日本ビタミン学会の会員に伝えておきたい2つを紹介したい。

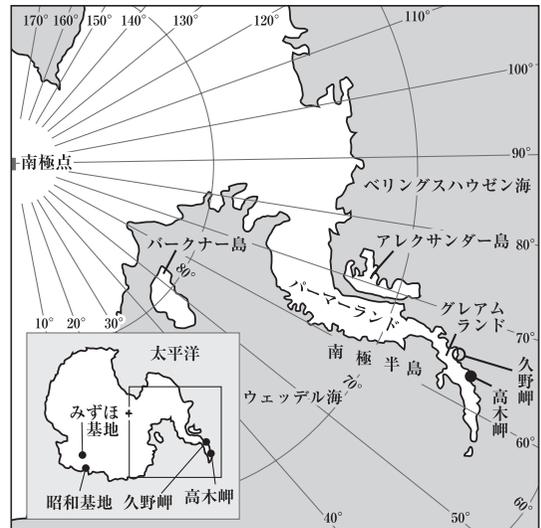
「高木岬」は、先の随想 [1] で述べた高木兼寛先生の脚気に関する研究業績を高く評価した英国の南極地名委員会 (United Kingdom Antarctic Place-names Committee, UK-APC) が、1952年に「エイクマン岬(Point)」、「フンク氷河(Glacier)」、「ホプキンス氷河」、「マッカラム峰(Peak)」と同時に命名したものである。ビタミン学会の会員なら、おそらく C. Eijkman, C. Funk, F. G. Hopkins, E. V. McCollum の名をご存知であろう。ビタミン研究者でノーベル賞の受賞者は多いが、C. Eijkman と F. G. Hopkins は、1929年の生理学医学賞の受賞者である。

残念ながら、鈴木梅太郎、島蘭順次郎など、わが国の他のビタミン研究のパイオニアの姓を冠した地名は南極にはない。

米国の地名辞典 (Geographic Names of the Antarctic, Second Edition : United States Board on Geographic Names) には、「高木岬」について、次のように記述されている。

Takaki Promontory 65° 33' S, 64° 14' W

Promontory at the NE side of Leroux Bay, on the W coast of Graham Land. First seen and roughly charted by the FrAE, 1903-05, under Charcot. Named by the UK-APC in 1959 after Baron Kanehiro Takaki (1849-1920), Director-General of the Medical Department of the Imperial Japanese Navy, the first man to prevent beriberi empirically by dietary additions, in 1882.



ここで、65° 33' S, 64° 14' W は、もちろん南緯65度33分、西経64度14分であるが、理解しやすいように、南極の地図に位置を示しておく。

「久野岬」は、久野 寧先生の業績をたたえてUK-APCが命名した。久野先生は、名古屋大学医学部教授 (生理学) 時代に「汗の研究」で卓越した業績をあげられ、1963年度の文化勲章を受章されている。直接にビタミンに関する研究をされていたのかについては、私は存じないが、本学会設立発起人会において準備委員長に選ばれ、翌1949年の第1回日本ビタミン学会総会において初代会長 (当時は、理事長と呼ばれた) となられ、本学会の基盤を確立して、1955年に勇退された。また、ビタミンB研究委員会 (設立時は、ビタミンB1連合研究打合せと称した) の初代委員長を1944年から20年間に亘り務められ、さらに1963年に社団法人ビタミンB協会 (後のビタミン協会) を設立して会長に就任され、1978年に勇退された。

このように日本におけるビタミン研究の推進に絶大なる貢献をされた大御所である。

前述の米国の地名辞典には、次のように記されている。

Kuno Point 66° 24' S, 67° 10' W

The SW extremity of Watkins Island, Biscoe Islands. Mapped from air photos taken by FIDASE (1956-57). Named by UK-APC after Yasau Kuno, Japanese physiologist who has specialized in the study of human sweating and its effect as a temperature regulator.

清水注記：文中の Yasau Kuno は誤りで、Yasu Kuno が正しい。文中の略号の意味は、

FIDASE : Falkland Islands and Dependencies Aerial Survey Expedition

FrAE : French Antarctic Expedition

南極の地名に関しては、国立極地研究所教授を務められた吉田栄夫先生に御教示を頂いた。ここ

に謝意を表します。

## 文 献

1. 清水祥一：松田誠博士と山下政三博士．ビタミン 82 : 527-528, 2008

[ビタミン 579-580, 82 巻 11 号, 2008 より転載]

久野 寧先生は、発汗の生理学で大きな業績をあげられ、また Japanese Journal of Physiology (現 Journal of Physiological Science) の初代編集長として 20 年の長きにわたって貢献されました。久野先生の名を冠した岬が南極にあることを、日本ビタミン学会の機関紙である「ビタミン」の「随想のページ」に清水祥一名古屋大学名誉教授が寄稿されていることを知り、日本ビタミン学会および清水祥一先生の諒解のもとに、全文を転載いたします (日本生理学雑誌編集委員会)。